様式２

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	環境局総務政策部ネイチャーポジティブ推進課
評価対象期間	令和７年４月１日～８年３月３１日

１　指定概要

指定管理施設	名　　称	北九州市響灘ビオトープ	施設類型	目的･機能
			Ⅰ	－　⑤
	所 在 地	北九州市若松区響町一丁目		
	設置目的	北九州市響灘ビオトープの貴重な自然環境を保全するとともに、生物の多様性の確保、その他の自然環境の保全に関する学習及び交流の場を提供し、自然と共生する社会の実現に資すること。		
利用料金制の状況		非利用料金制　・　一部利用料金制　・　完全利用料金制		
指定管理者	名　　称	響灘ビオトープ共同事業体		
	所 在 地	北九州市若松区高須西一丁目１４番１３号		
指定管理業務の内容		・施設の利用許可に関する業務 ・利用料金の徴収に関する業務 ・施設の維持管理に関する業務（清掃、警備、安全管理、草刈、軽微な修繕等） ・施設の運営に関する業務（ガイド、広報宣伝、エコツアー等イベント企画運営等） ・ビオトープの自然環境の保全に関する業務 ・自然環境の保全に関する学習及び交流の場の提供に関する業務 ・その他苦情対応等		
指定期間		令和７年４月１日～令和１２年３月３１日		

【参考：評価レベル】

評価レベル	乗　率		評価レベルの考え方
5	１００%	良　い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	８０%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている

3	60%	普　通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%		要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2　評価結果

評価項目	指定管理者の自己評価 （評価レベル：0～5）	市（所管局）の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との相違理由　など	配点 （100点満点）	得点（評価結果）
1　施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	**43**
（1）施設の設置目的の達成	4	4	要求水準及び指定管理者による目標値が設定されている「利用者数」及び「エコツアー参加者数」を軸に評価を行った。 「利用者数」に関しては、各種イベントを積極的に実施したほか、SNS等の広報を精力的に実施した結果、要求水準及び目標値を十分に超える結果となっている。 一方で、「エコツアー参加者数」が要求水準及び目標値と同程度にとどまっているため、評価は4とする。	35	28
（2）利用者の満足度	5	5	アンケート結果から利用者の高い満足度が確認出来た。また、昨期の選定前評価で指摘した有効回答数が少ない点について、改善がみられる点も評価できる。	15	15
2　効率性の向上等に関する取組み				30	**22**
（1）経費の低減等	3	3	経費は概ね計画通りに執行されている。また、経費削減に取り組む部分がある一方で、生物調査等に使用する機材の購入といった施設の目的に沿った経費や、新規の顔出しパネル作成といった利用者の満足度向上につながる経費は、積極的に配分出来ている。	20	12
（2）収入の増加	5	5	利用料金等の収入が増加しているほか、自主事業で得た利益の施設運営への還元額も前年度から大きく増加している。	10	10
3　公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	**14**

（1）施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	4	4	施設運営に関する専門的な知識を有するスタッフの雇用や、各種研修によるスキルアップの実施、他団体との協働による取組を積極的に実施している。	１０	8
（2）平等利用、安全対策、危機管理体制 など	3	3	施設の特性上、夏季の熱中症対策が重要となるが、日傘の貸出や熱中症計の掲示、塩飴の配布等の対策が実施されているほか、ユニバーサルデザインの自販機の導入、車椅子や杖等の備品設置といった取組が実施されている。	１０	6
			合　計	１００	79
			総合評価ランク（A～E）		B

【参考：総合評価ランク】
A：優れていると認められる　（８０点以上）
B：やや優れていると認められる　（７０点以上８０点未満）
C：適正であると認められる　（６０点以上７０点未満）
D：努力が必要であると認められる（５０点以上６０点未満）
E：かなりの努力が必要であると認められる　（５０点未満）

【総合評価】　※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

季節ごとに施設の特徴を活かしたイベント実施に注力したほか、施設で見られる野鳥等の情報を効果的に発信することで、要求水準及び提案時の目標を超える利用者数を達成した（要求水準比 120.2%、目標値比 115.7%）。

また、地域や関係団体との連携や協働について、若松区全体で実施された Wakamatsu Sparks への協力や響灘地区の課題である飲食店不足に対してキッチンカー等を誘致し地域課題解決への貢献、管理運営を補佐しているボランティア団体「響灘ビオトープ愛好会」が環境省自然環境局長賞を受賞といった外部評価されているほか、本市の生物多様性戦略を深く理解し、市や企業と連携してネイチャーポジティブの推進を実施している点が評価できる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。

自然保護からネイチャーポジティブへの市の方針転換に即し、指定管理者もしっかりと施設を運営している。今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

＜参考＞現指定期間中の評価結果

区　分	令和７年度（１年目）	令和８年度（２年目）	令和９年度（３年目）	令和10年度（４年目）	令和11年度（５年目）
評価結果（合計得点）	７９	－	－	－	－

平　均
７９

※高評価のインセンティブ（更新制）について

▶１～３年目の平均点が７５点以上の指定管理者（指定期間５年間の事業者に限る）について、１期に限り指定の更新（＋５年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が５９点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から１０点または１５点をマイナス）するもの。

様式１

事業報告書（指定管理者による自己評価）

１　指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名　　称	北九州市響灘ビオトープ
	所 在 地	北九州市若松区響町一丁目
指定管理者 （自己評価者）	名　　称	響灘ビオトープ共同事業体
	所 在 地	北九州市八幡西区南鷹見町 6-51　株式会社エコプラン研究所内
指定期間		令和７年４月１日～令和 11 年３月 31 日
事業報告（自己評価）の対象期間		令和７年４月１日～令和８年３月 31 日

２　企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備　考 （補足説明等）
関連団体協働による生物調査事業	☑	○	
順応的管理事業	☑	○	
オーダーメイド型植生管理事業	☑	○	
外来種駆除事業	☑	○	
生物調査 DX 化研究事業	☑	○	
体験型生物観察会、大人の部活事業	☑	○	
他主体協働事業	☑	○	
学会等発表・参加事業	☑	○	
グリーンインフラ貢献事業	☑	○	
地域課題の解決事業	☑	○	
ネイチャーポジティブ発信事業	☑	○	
連続講座開催事業	☑	○	
自然講演会事業	☑	○	
自然系施設連携事業	☑	○	
他主体連携マルシェ開催事業	☑	○	
北九州バードフェス開催	☑	○	
教育機関、高齢者等団体誘致事業	☑	○	
天候変化サービス事業	☑	○	

バスツアー等交通対策事業	☑	○	
支払い電子化検討	☑	×	R7は検討のみ
ライフスタイル広告戦略事業	☑	○	
異分野協働情報発信事業	☑	○	
オリジナルカレンダー事業	☑	○	
SNSニーズ抽出事業	☑	○	
ユニバーサルデザイン事業	☑	○	
アンケート意見要望反映事業	☑	○	
社会情勢反映事業	☑	○	
アンケートDX化事業	☑	○	
お客様意見の改善策の可視化事業	☑	×	Ｒ７対策実施、Ｒ８導入予定
異分野コミュニケーション事業	☑	○	
苦情対策研修	☑	○	
SNSブランディング事業	☑	○	
アウトリーチ事業	☑	○	
アントレプレナーシップ研修	☑	○	
NP推進ビジネス対策事業	☑	○	
バルーン係留	□	○	
チーム対抗リレーマラソン	□	○	
ドゲンジャーズと自然学習	□	○	
自動車愛好家誘致	□	○	
気候変動ワークショップ	□	○	
	□		

自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備　考 （補足説明等）
自動販売機事業	☑	○	
ホップによるSDGsまちづくり事業	☑	○	
地域課題（ランチ難民）対策事業	☑	○	
水生真正水生昆虫保全事業	□	○	
	□		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3　自己評価結果

評価項目及び評価のポイント	自己評価
1　施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
（1）施設の設置目的の達成	評価レベル（0～5）
①　計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ②　利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ~~③　複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。~~（対象外） ④　施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	4

［評価の理由、要因・原因分析］

・年間を通じ、季節に応じた生物多様性に関するイベントを開催したほか、市内の全市立小学校へのチラシ配布、多主体協働による事業開催やアウトリーチ事業における PR などにより来園を促進した。また、平日のキッチンカー・松屋出店による利用者や地域の利便性向上に資する取組を実施した。この結果、要求水準及び提案時の目標を超える利用者数を達成した（要求水準比 120.2%、目標値比 115.7%）。エコツアーも、主催事業において、エコツアーを組み込むなどにより、要求水準比・目標値比 103.3%と目標超えを達成した。

各季節の取組は以下のとおり。

・春季は、ベッコウトンボ関連事業、メダカを切口とした生物多様性の保全に資するイベント、ゴールデンウイークイベント、ブリヂストン協働のスクミリンゴガイ捕獲、環境 AL や社会見学の学校などの来園に加え、オオバン（鳥類）の子育てについて報道機関へ投込を行った結果、NHK 放映や新聞掲載が行われ、大幅な来園者増に繋げることができた。

・夏季は、夏休み期間であることから、児童と家族をターゲットにした主催事業「池なか探検」や夏休みの宿題対策事業として新たに若松図書館・エコタウンセンターと協働するスタンプラリーも行った。また、他主体協働によるスクミリンゴガイ捕獲や共催イベントである北九州バードフェスにおける自然講演会開催などにより来園者増に繋げることができた。

・秋季は、若松区のシンボル事業 Wakamatsu Sparks の一環として、若松区役所と連携してチーム対抗リレーを実施した。また、周年イベントとしてドゲンジャーズ関連事業、響灘バルーンさんぽやマルシェ開催等の新規来園者の獲得を目指した新たな取組も行い、来園者増に繋げることができた。

・冬季は、毎年好評のオリジナルカレンダープレゼント、野鳥写真展、親子マルシェ、週末毎の室内でできるイベントに加え、ネイチャーポジティブセンター10 施設と協働したスタンプラリーの企画・運営や植物を切り口にした生物多様性の保全に資するイ

ベントを開催した。また、ヘラサギ、サンカノゴイやヤツガシラなどバードウオッチングで人気の高い野鳥の出現情報を SNS で積極的に広報し、観察者増に繋げた。このような希少性のある野鳥の出現は、情報発信だけでなく、植生管理など順応的管理の効果であるともいえる。

・団体対応においては、事前に時間や内容などを協議し、要望と年代、目的などに応じたオーダーメイド型の対応を行った。

（単位：人）

【利用者数】	R6 年度（更新前）	R7 年度（1年目）	R8 年度（2年目）	R9 年度（3年目）	R10 年度（4年目）	R11 年度（5年目）
要求水準	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
目標値	18,600	18,700	18,800	18,900	18,900	19,000
実績	20,770	21,633	－	－	－	－

【エコツアー利用者数】	R6 年度（更新前）	R7 年度（1年目）	R8 年度（2年目）	R9 年度（3年目）	R10 年度（4年目）	R11 年度（5年目）
要求水準	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
目標値	4,500	4,500	4,550	4,600	4,650	4,700
実績	4,723	4,650	-	-	-	-

※ □・・・評価対象年度

（2）利用者の満足度　　評価レベル（0～5）

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	5
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。	
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。	
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	

［評価の理由、要因・原因分析］

・アンケート採集方法を従来の紙に記載してもらう方法に加え、二次元バーコードから web 記入のハイブリッド方式を新たに導入したことにより回答数を増加させられた。

・他にも回答者数を増やすための取組として、ネイチャーセンターにおいて、来園者が任意回答する場合は、粗品をプレゼントした。

・現場を熟知した専門スタッフが安定して配置されており、また、定期的にリスクマネジメント研修を受講し、トラブル時も迅速に対応できる体制をとった。（トラブルはなかった）

・少ないながら見られた要望や意見についても誠実かつ丁寧に対応した。

・実績として、スタッフ対応は満足 98.9%、展示の見やすさは満足 96.6%といずれも高い満足度を獲得できた。

・イベントの内容については、イベント参加者の無回答を除いた満足度は、99.1%とな

り、満足度は高いといえる。なお、本質問は、R6 年度は、主催事業参加者のみを対象にした。

【満足度】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 （1 年目）	R8 年度 （2 年目）	R9 年度 （3 年目）	R10 年度 （4 年目）	R11 年度 （5 年目）
目標値	99.9%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%
実績 1	100.0%	99.1%	－	－	－	－
実績 2	98.2%	96.6%	－	－	－	－
実績 3	97.3%	98.9%	－	－	－	－
有効回答数	111 人	647 人				

※ □・・・評価対象年度

※実績 1/イベント内容、実績 2/展示物の見やすさ、実績 3/スタッフの対応

※実績 1 は、R6 は、主催事業参加のみを対象にした

※目標値は、実績 1～3 の各項目の平均値

2　効率性の向上等に関する取組み

（1）経費の低減等

	評価レベル（0～5）
①　施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。 ②　清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 ③　経費の効果的・効率的な執行がなされたか。	3

［評価の理由、要因・原因分析］

・入園者数の増加およびイベント受講料の見直しにより収入を増加させたことに対し、利用者増に向けたサービス向上への投資や、業務効率化・経費削減に取り組むなど、メリハリのある予算配分を行ったことで、効果的な運営を達成した。

・経費について、物価高や草原迷路の除草等の施設維持管理費の増加により計画を大きく超過するおそれがあったが、各種取組によりほぼ計画相当に抑制した。

具体的には次の通り。

・事業費については、複数の周年事業やネイチャーポジティブ啓発普及イベント実施経費、各種イベントや生物調査等に使用する機材の購入、新規の顔出しパネル作成などにより増加となったが、オリジナルカレンダーの業者交渉による引き下げ、ノベルティグッズの見直し、自動車再リースによる保険料減少や講演会開催における設備費を講演方式の工夫などにより抑えた。

・再委託については、水域の除草の専用重機の必要な工事、警備・特殊清掃・建築物点検など専門資格、技術や機器の必要な業種以外は内製化を図り、経費の削減に努めた。

・運営全体の収支をバランスよく調整し、効率的な管理運営を遂行できた。

（単位：千円）

【支　出】		R6年度（更新前）	R7年度（1年目）	R8年度（2年目）	R9年度（3年目）	R10年度（4年目）	R11年度（5年目）
事業費	計画	5,302	6,466	6,879	6,898	6,891	6,890
	実績	4,146	7,260	—	—	—	—
人件費	計画	28,560	28,786	28,460	28,540	28,620	28,700
	実績	26,798	27,801	—	—	—	—
施設維持管理費	計画	5,635	12,430	12,507	12,459	12,459	12,459
	実績	7,667	12,843	—	—	—	—
その他管理運営費	計画	2,246	370	321	321	299	288
	実績	4,372	170	—	—	—	—
一般管理費等	計画	2,595	2,050	1,962	1,950	1,949	1,920
	実績	1,221	2,570	—	—	—	—
計	計画	44,338	50,101	50,129	50,167	50,217	50,257
	実績	44,203	50,643	—	—	—	—

注：端数処理の関係で、内訳の合計が合計欄と異なる場合があります。

・修繕内容として、外壁コンクリートの斫り跡や内壁のクラック補修、窓のブラインドの巻取り機および羽の修繕、空調機リモコンの経年劣化に伴う交換を行い、長寿命化に努めた。
・次年度は、屋根の防水押え金物廻りのシーリングのやり替えを計画している。

（単位：千円）

【うち修繕費】	R6年度（更新前）	R7年度（1年目）	R8年度（2年目）	R9年度（3年目）	R10年度（4年目）	R11年度（5年目）
計画	—	400	400	400	400	400
実績	216	356	—	—	—	—

※ □・・・評価対象年度

（2）収入の増加

評価レベル（0～5）
5

①　収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
②　使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
③　自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

［評価の理由、要因・原因分析］

・季節に応じた生物保全や外来種駆除など、リピート来園を促す取組を強化。また、他団体との連携によるイベント開催で新規の入園者数を促進した。来園者数の増加対策とサービス向上に見合った受講料の設定や自主事業からの還元などを通じて収入の増

加を実現した。

具体的には次の通り。

・有料入園者については、来園者を増加させる様々な取組により、一般入園者数と年間パスポート購入者数ともに増やすことができ、入園者数は前年度比 104.2%%、利用料金収入は、前年度比 112.3%となった。これは、年間パスポートの購入者数（購入料金）は、前年度比で 119.7%と増加させられたことで料金収入の増加率に貢献した。

・施設利用料については、九州実業団駅伝が北九州を離れてから利用が少なくなったが、近隣企業（ブリヂストン関係）への PR により、複数利用があり、計画の約 20%増加させた。

・講座受講料については、配布物の内容やクラフト系イベントの材料の充実などサービス向上を図りつつ、適切な範囲で受講料の見直しも行い、増加させた。

・自主事業の収益還元として、自販機の売上に加え、響灘ホップの会からの自然環境保全への還元、および旧北九州市自然環境保全ネットワークの会からネイチャーポジティブスタンプラリー運営への還元などを計上した。

・指定管理費における計画と実績の金額の違いは、修繕費の残額返金分。

・評価においては、収入を増加させ、自主事業からの還元拡大したことを考慮し、「５」とした。

（単位：千円）

【収　入】		R6 年度（更新前）	R7 年度（１年目）	R8 年度（２年目）	R9 年度（３年目）	R10 年度（４年目）	R11 年度（５年目）
利用料金収入	計画	335	357	359	361	363	367
	実績	346	389	—	—	—	—
施設利用料収入	計画	30	45	45	45	45	45
	実績	12	54	—	—	—	—
講座受講費収入	計画	100	200	220	240	260	280
	実績	156	423	—	—	—	—
指定管理費収入		43,633	49,444	49,450	49,446	49,454	49,450
		43,633	49,400				
自主事業収益還元	計画	40	55	55	75	95	115
	実績	56	377	—	—	—	—
計	計画	44,138	50,101	50,129	50,167	50,217	50,257
	実績	44,203	50,643	—	—	—	—

注：端数処理の関係で、内訳の合計が合計欄と異なる場合があります。

・自主事業における響灘ホップの会によるホップを使った SDGs まちづくりにおいては、武内市長にも成果を報告し、北九州らしい取組になっていると激励をいただいた。市民参加によるホップを使った地ビールの売上の一部を還元することができた。

・ネイチャーポジティブセンターが発足したことを機に、センターに白野江植物公園を

加えた 11 施設を巡るスタンプラリーを企画し、運営した。その企画に賛同していただいた旧北九州市自然環境保全ネットワークの会より支援をいただくことができた。

・新規として、日揮触媒化成様による自然共生サイトへの支援を受けることになり、真正水生昆虫の調査と環境学習を行い、重要種 7 種を含む計 27 種の真正水生昆虫が確認できた。なお、この支援活動により日揮触媒化成様は、環境省より支援証明書を取得できた。R8 年度も継続予定。

・その他、前年度に続き、自販機の売上を還元した。

＜指定管理業務への
収益還元の状況＞　　(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利益額	1,221	868				
還元額	56	377	－	－	－	－
還元率	4.6%	43.5%	－	－	－	－

注：端数処理の関係で、内訳の合計が合計欄と異なる場合があります。

※ □ ・・・評価対象年度

3　公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

（1）施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

評価レベル（0～5）

① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。	4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。	
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	

［評価の理由、要因・原因分析］

・響灘ビオトープの現場を熟知したスタッフを継続して雇用した。

・新規採用においては、生物保全活動の経験があり、専門的な知識を有する人材を採用した。

・スタッフの生き物に関する知識の向上や情報獲得のため、共同事業体の構成企業の 1 つで、生物調査を主とするエコプラン研究所のスタッフによる調査やイベント支援を行った。

・主体的に「新たな価値」を創造する精神を養い、指示待ちから脱却して行動力を高めるため、スタッフ全員がアントレプレナーシップ研修を受講した。

・他にスタッフの研修として、リスクマネジメント研修受講、福岡県暴力追放運動推進センターが web で配信する動画を閲覧した。万が一に備え、受付カウンターに「さすまた」を配備した。

・管理運営を補佐する「響灘ビオトープ愛好会」の活性化を図るため、代表者の更新、新規メンバーの積極的な勧誘を行った（6 人加入）。なお、愛好会は、長年の取り組みが評価され、「令和 7 年度環境省自然環境局長賞」を受賞した。

・愛好会の他にもネイチャーポジティブの認識を高めるため、自然関連団体に限らず、異分野の団体も含め、様々な主体と多様なテーマで協働・連携を図った。

・アウトリーチ事業として、学校への出張授業、地域のイベント参加や生物保全の取組など計 57 回、2632 人に対して、饗灘ビオトープの魅力やネイチャーポジティブの意義について発信した。
・若松区の企業、行政、団体が連携し、地域の経済振興やイベント支援を通じて街の発展を目指す団体「若松あつまる会」に加入した。

（2）平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル（0～5）
①　施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。 ②　利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③　利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④　施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤　日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥　防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦　事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	3

［評価の理由、要因・原因分析］
・スタッフ全員が定期的に「上級救命講習」（普通救命講習の学習内容に加え、止血法、傷病者管理法、副子固定法、搬送法などを学習）を受講し、お客様の安全管理、健康管理ができる体制を構築。・　新規採用スタッフは、リスクマネジメント研修を受講した。
・個人情報の扱いについては、「個人情報保護法」に加えて、共同事業体による「特別個人情報社内取扱規程」、「個人情報および法定帳簿取り扱い内部規程附則」を作成して、運用。
・SNS 利用における個人情報保護については、「響灘ビオトープ　ソーシャルメディア（X、You Tube、Instagram）運用ポリシー」の規程に基づき運営し、生物情報やイベント告知などタイムリーな発信ができた。
・お客様の熱中症対策として、夏季に日傘貸し出し、熱中症計による目安の表示、塩飴の無料配布を行った。

【総合評価】

［全体的な評価・今後の対応等］
（評価）
・響灘ビオトープの核心的な価値である湿地と草地の生物多様性保全を推進するため、チュウヒ、ベッコウトンボ、カヤネズミ、トノサマガエルといった絶滅危惧種だけでなく、普通種を含む多様な生物の生息環境保全に尽力し、それぞれ生息しつづけられている。
・生物多様性保全を体験型プログラムとして提供するにあたり、自然保護団体のみならず

官民の異業種との広範な連携体制を構築。この協働により、集客力の強化、顧客満足度の向上、および多角的な情報発信において多面的な成果を収めた。また、季節に応じた生物保全や外来種駆除などリピート性を創出する参加形態も工夫し、入園者数と収入の増加に繋げた。

・生物保全だけでなく、自然や生物に関心の低い方々にもアプローチするため、多主体と連携してスポーツ・ペット・園芸など趣味や娯楽をテーマにしたイベントを開催し、来園のきっかけを創出した。

・HP や SNS を駆使した、旬の生きもの情報やイベント情報のタイムリーな発信により、効果的な広報ができた。このような発信について、希少種検討委員会の委員からも評価をいただいた。

・お客様のアンケート結果においては、少ない要望や意見に対しても誠実な対応を実行し、また、社会情勢・ニーズを敏感に捉えた取組も推進することで、お客様からの高い満足度を得た。

・野外を主なフィールドとする性質上、突然の大雨や高温といった天候の変化に際しても、お客様の安全確保に細心の注意を払い、怪我や事故のない運営を実現した。

・スタッフのスキルアップ支援やリスクマネジメントの徹底など、働きやすい労働環境の整備に注力し、その結果、満足度調査におけるスタッフ対応についても高い評価を得た。

・本市の生物多様性戦略を深く理解し、市の方向性と一致した管理運営を行った。

・以上のような様々な取組を通じて、「自然に恩返し、ネイチャーポジティブで未来を動かす」というビジョンを推進している。

（展望）

・今後も気候変動が野生生物へ影響を及ぼすことが想定される状況で、植生や生物の行動変化を注視し、持続的な生息を可能にする管理を継続する。

・生物保全および啓発事業の実施においては、本市の「地域コミュニティ創生元年」とリンクできるよう、多くの主体との協働を継続・発展させる。

・人口減少局面において、本市による市外・海外からの観光客誘致と足並みを揃え、ターゲットの拡大と新規顧客の獲得に注力する。

・本市の施策や社会情勢を敏感にキャッチし、時代の変化に柔軟に対応する管理運営を目指す。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良　い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普　通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった

0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。